



TITLE:

腎平滑筋肉腫の1例

AUTHOR(S):

金丸, 洋史; 佐々木, 美晴

CITATION:

金丸, 洋史 ...[et al]. 腎平滑筋肉腫の1例. 泌尿器科紀要 1983, 29(11): 1521-1524

ISSUE DATE:

1983-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/120279>

RIGHT:

腎平滑筋肉腫の1例

市立静岡病院泌尿器科

金丸 洋 史

佐々木 美 晴

A CASE OF RENAL LEIOMYOSARCOMA

Hiroshi KANAMARU and Miharuru SASAKI

From the Department of Urology, Shizuoka City Hospital

A case of renal leiomyosarcoma is presented. A 65-year-old man was admitted with asymptomatic gross hematuria. On excretory pyelography, the left kidney was not visualized. Computed tomography showed a left intrarenal mass. The patient underwent left radical nephrectomy.

The histological diagnosis was leiomyosarcoma probably originating from the left renal pelvis.

Key words: Leiomyosarcoma, Kidney

緒 言

腎平滑筋肉腫は比較的まれな疾患であり、本邦ではこれまで36例が報告されている。最近われわれは無症候性血尿を主訴とし、腎盂より発生したと思われる平滑筋肉腫の1例を経験したので、これを報告する。

症 例

患者：65歳 男性 農業

初診：1982年12月15日

主訴：肉眼的血尿

家族歴：特記すべきものなし

既往歴：左腎結石（詳細不明）

現病歴：1982年12月14日肉眼的血尿に気づき、翌日当科を受診した。疼痛・腫瘍などの訴えなし。

現症：体格中等度。栄養良好。脈拍および呼吸は正常。心肺に聴診上異常なし。表在リンパ節は触れず、胸腹部に腫瘤を触知せず。

入院時検査所見：血圧 128/74。赤沈 1時間値 8 mm。尿所見：糖(一)、蛋白(卅)、沈渣赤血球多数。末梢血；赤血球 $396 \times 10^4/\text{mm}^3$ 、白血球 $6,700/\text{mm}^3$ 、血小板 $20.3 \times 10^4/\text{mm}^3$ 、ヘマトクリット 36.5%、血色素 11.6 g/dl。血液生化学；GOT 23 K.U, GPT 9 K.U,

ALP 8.6 K.A.U, LDH 390 W.U, BUN 16.0 mg/dl, クレアチニン 1.3 mg/dl, Na 139 mEq/l, K 3.3 mEq/l, Cl 104 mEq/l, Ca 8.8 mg/dl, 血清総蛋白 7.6 g/dl。

X線学的検査：排泄性腎盂造影では右腎に著変ないが、左腎は描出されない (Fig. 1)。逆行性腎盂造影では尿管カテーテルが左尿管口から約 2 cm しか挿入できず、造影剤の注入にて腎盂尿管像が得られなかった。CTでは左腎腫大と腎内部の不均質な病変を認めた (Fig. 2)。大動脈造影では左腎動脈は細く血管に乏しく、一部 pooling sign を認めた (Fig. 3)。

以上の所見より左腎腫瘍を疑い、1983年1月6日根治的左腎摘除術をおこなった。

手術所見：胸腹式到達法にて後腹膜腔に至り、左腎を周囲脂肪組織とともに一塊として摘除したが、ゆ着もなく摘除は比較的容易であった。腎門部周囲にリンパ節腫大は認めず、リンパ節郭清はおこなわなかった。

摘出標本 (Fig. 4)：重量 284 g、大きさ $13.5 \times 10.0 \times 8.0$ cm、表面は被膜に包まれ比較的平滑であった。断面は黄灰白色の腫瘍が内腔を占め、腎実質は菲薄化していた。尿管腔には凝血塊が充満していたが、尿管粘膜は正常と思われた。

病理組織所見：HE染色では紡錘形の細胞が不規則に交錯し、核の大小不同および一部に分裂像を認めた

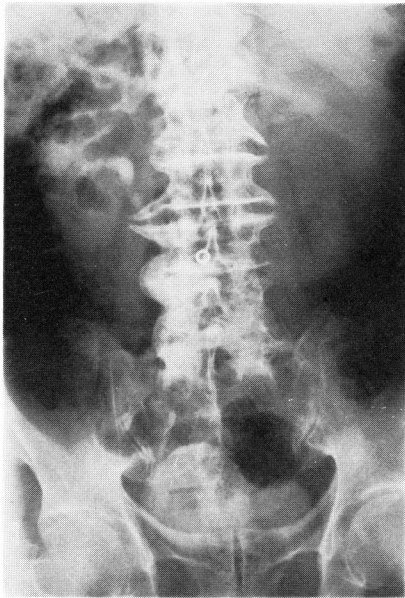


Fig. 1. DIP

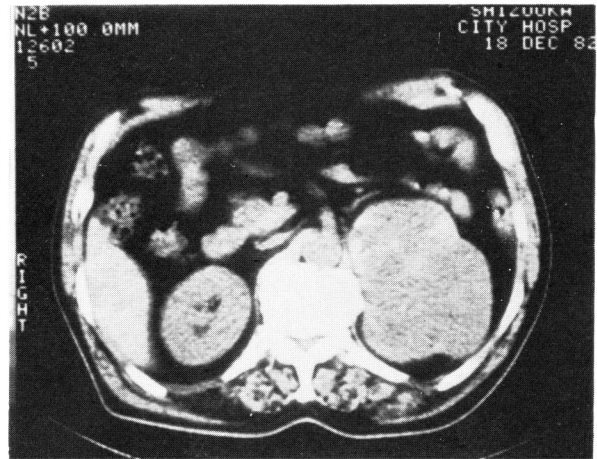


Fig. 2. CT scan

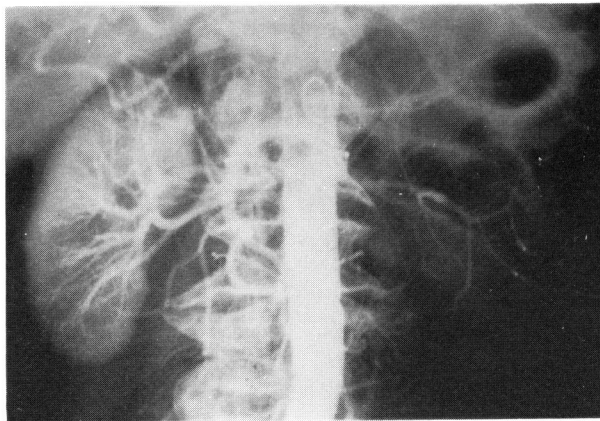


Fig. 3. Aortography

(Fig. 5). 腫瘍細胞は Azan Mallory 染色では赤染し, Van Gieson 染色では黄染がみられた. 電顕では細胞質内に dense body をもった fine filament が多数認められた (Fig. 6). 腫瘍組織は腎盂から腎髓質にかけて広範に浸潤増殖し, 部分的に出血・壊死がみられた. 本来の腎実質は腫瘍により圧迫萎縮におちいつているが, 腎外への浸潤は認めず, また, 尿管への浸潤もみられなかった.

以上の所見より, 腎盂から発生した平滑筋肉腫と診断した.

術後経過は良好で, 放射線療法・化学療法などは施行せず, 術後22日目に退院した. 退院4ヵ月後の現在も転移・再発の所見なく外来観察中である.

考 察

腎平滑筋肉腫は比較的まれな疾患であり, 本邦では自験例を含め37例が報告されている.

発生部位は腎被膜, 腎盂, 腎血管の平滑筋と考えられ, 腎被膜より発生する場合がもっとも多いとされている^{1,2)}. このため臨床症状として肉眼的血尿の頻度が少ないことが指摘されてきた³⁾. 事実, 本邦37例中腫瘍触知26例, 疼痛21例, 肉眼的血尿11例と肉眼的血尿の頻度は少ない.

発生部位の確定は腫瘍の発育・増大とともに困難になると思われ, 本邦では発生部位まで言及されている症例は多くない. このうち自験例を含めて記載のあき

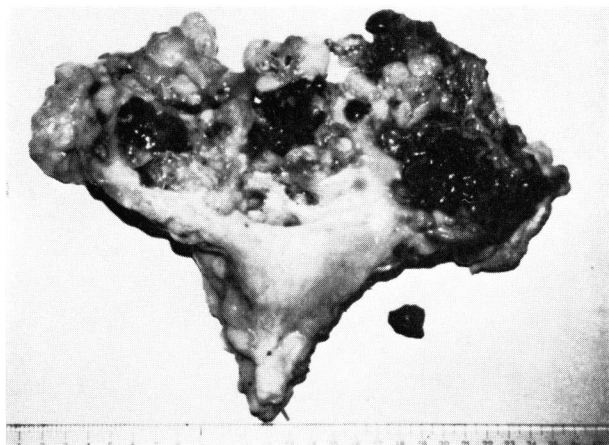


Fig. 4. Cut surface of the specimen

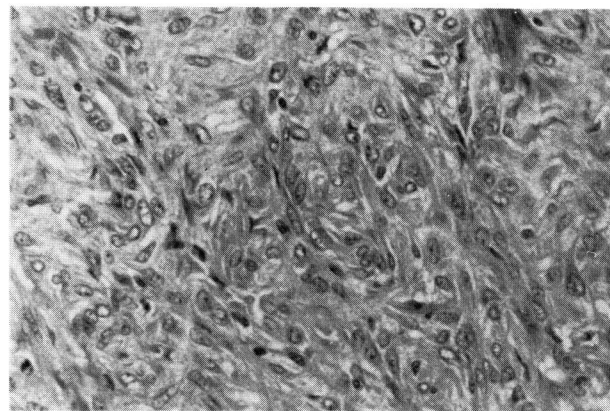


Fig. 5. Microscopic appearance of the tumor

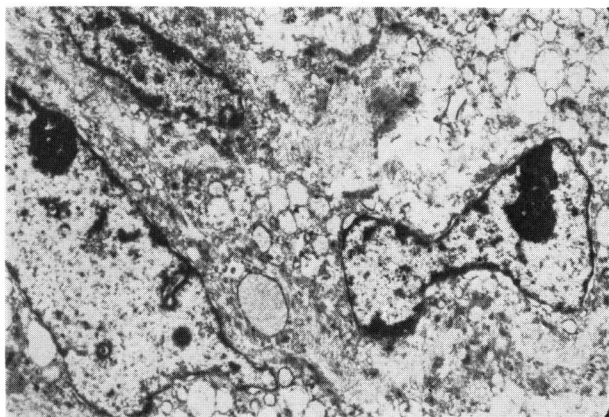


Fig. 6. Electron-optical appearance of the tumor

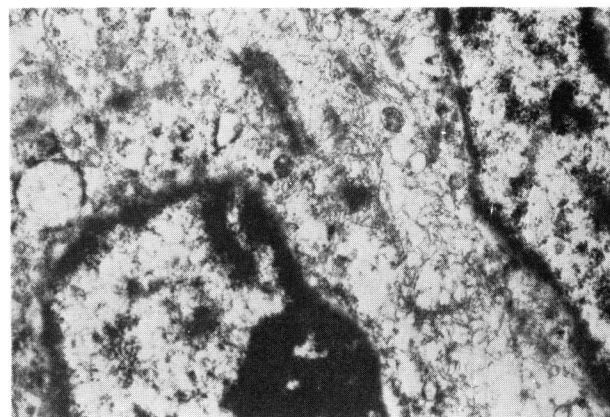


Fig. 7. Higher magnification of Fig. 6

Table 1. Comparison of symptoms between tumors from renal pelvis and tumors from renal capsule or renal parenchyma

Site of origin	No. of cases	Gross hematuria	Palpable tumor	Pain
Renal pelvis	3	2	1	2
Renal capsule or parenchyma	8	0	6	7

らかな11例中、腎盂より発生したと思われる症例は3例であり、他の8例は腎被膜あるいは腎実質から発生したと思われた⁴⁻¹²⁾。

発生部位により臨床症状を比較すると、腎被膜あるいは腎実質より発生した8例中、血尿は1例もなく、腫瘍6例、疼痛7例であった。これに対して腎盂より発生した3例中、血尿は2例に認められ、腫瘍1例、疼痛2例であった (Table 1)。

このように発生部位により臨床症状がやや異なる傾向がみられた。

また、本疾患は術前診断が困難と思われるが、鑑別診断上発生部位によりそれぞれ後腹膜腫瘍、腎癌、腎盂癌などとの鑑別が問題になると考えられ、本症例の場合も術前に腎癌あるいは腎盂癌との鑑別が困難であった。

以上、腎平滑筋肉腫の発生部位と臨床像との関連について若干の考察を加えたが、症例数が少ないため、さらに今後の検討が必要と思われる。

結 語

無症候性血尿を主訴とし、腎盂より発生したと思われる平滑筋肉腫の1例を報告した。

稿を終るに臨み、御校閲を賜った京都大学吉田 修教授並びに病理所見の御教示を載いた市立静岡病院伊藤忠弘先生に深謝いたします。

なを本論文の要旨は第418回日本泌尿器科学会東京地方会において発表した。

文 献

1) Farrow GM, Harrison EG Jr, Utz DC and

ReMine WH: Sarcoma and sarcomatoid and mixed malignant tumor of the kidney in adults-part 1. *Cancer* 22: 545~550, 1968

- 2) Bennington JL and Beckwith JB: Atlas of tumor pathology, Tumors of the kidney, renal pelvis, and ureter, second series, ed. by Firminger, H. I., A.F.I.P., Washington, 213, 1975
- 3) 小田島邦男・馬場志郎・早川正道・藤岡俊夫: 腎平滑筋肉腫と陰茎癌の重複症例. *泌尿紀要* 29: 425~431, 1983
- 4) 南 武・安藤 弘・川口安夫・坂本忠昭・竹野光彦・三橋寛七: 腎被膜腫瘍の1例 (平滑筋肉腫). *臨皮泌* 11: 1063~1069, 1957
- 5) 白神健志: 腎肉腫の1例. *泌尿紀要* 11: 66~72, 1965
- 6) 津島恵輔・小原徹也・阿保 優・武内 俊・杉山喜彦: 腎平滑筋肉腫の1手術例. *外科* 31: 210~214, 1967
- 7) 桐山啓夫・広中 弘・大北純三・福田和男: 腎被膜に発生した平滑 筋肉腫の1治験例. *西日 泌尿* 31: 366~371, 1969
- 8) 南後千秋・金田泰雄・山川義憲・大川光央・松原藤継: 腎被膜平滑筋肉腫の1例. *日泌尿会誌* 62: 95, 1971
- 9) 南 孝明・大石幸彦・佐々木忠正・斉藤賢一・南武: 腎平滑筋肉腫症例. *日泌尿会誌* 61: 515, 1970
- 10) 浅石和昭・松尾喜徳・中野武次・山岡拓二・石井良文: 巨大な後腹膜腫瘤を呈した腎平滑筋肉腫の1例. *外科治療* 29: 355~361, 1973
- 11) 広野晴彦・川井 博・淡輪邦夫: 腎平滑筋肉腫. *臨泌* 26: 379, 1972
- 12) 陳 瑞昌・町田豊平・増田富士男・三木 誠・佐々木忠正・谷野 誠・小路 良・赤阪雄一郎: 腎平滑筋肉腫の2例. *日泌尿会誌* 69: 1512~1521, 1978

(1983年6月6日受付)